

# ロヒンギャ難民問題における ASEAN加盟国と日本の対応

岩野亜美  
総合学域群第3類

## 1 | ロヒンギャ難民問題とは

### ■ロヒンギャとは？

- ▶第二次世界大戦後に現在のバングラデシュからミャンマーに流入したベンガル系のムスリム。
- ▶仏教徒が人口の9割であるミャンマー側はロヒンギャを「不法移民」と見なし、宗教、言語の違いから排斥



### 2017年8月

ミャンマー・ラカイン州で起きた武力衝突をきっかけに大量の避難民が発生。約70万人が隣国のバングラデシュへ流出。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000450192.pdf>

### ■歴史的背景

- ▶1941年 日本軍はビルマ（現在のミャンマー）に侵攻  
イギリス植民地軍を駆逐するためにラカイン州の仏教徒を武装させ、イギリスに忠誠をもったムスリム系住民と対立  
⇒**仏教徒vsイスラム教徒（ムスリム）**との対立の構図のきっかけ
- ▶1950年頃「**ロヒンギャ**」という呼称が使われるようになる
- ▶1962年 ミャンマー国内で**軍事クーデター**が発生  
⇒国軍による差別化が進む
- ▶2021年 スーチー氏の拘束により再び軍が政権を握る  
⇒ロヒンギャの帰還に前向きな姿勢を示しているが、国内からの反発や過去の差別から、安全が確保されたわけではない

## 2 | ロヒンギャ難民問題の実態

### ■人権侵害

- ▶「ロヒンギャ」呼称のミャンマー政府による否定⇒無国籍状態
- ▶移動の自由の制限
- ▶教育と雇用の権利侵害
- ▶政府による財産の恣意的な押収
- ▶軍部による強制移住、強制労働、女性への性的暴力など
- ▶臨時国籍証の剥奪(2014年)
- ▶選挙権、被選挙権の剥奪(2015年)
- ▶SNSによる誹謗中傷や人身売買

### ■隣国バングラデシュの対応

- ▶受け入れ・支援に対して慎重な姿勢
- 地元住民からの強い反発（物価の高騰や犯罪の多発etc.）
- ▶1992年に難民認定を停止  
⇒流入は防ぐことはできないが、できるだけ難民を帰還させたい方針は変わらない
- ▶2017年9月半ばから、バングラデシュ政府が本格的に人道支援に踏み切り、支援体制を整える

## 参考文献

ロヒンギャ問題の歴史的背景—なぜ軍と国民は反ロヒンギャで「一致」するのか—根本敬  
<https://www.mof.go.jp/pri/research/seminar/fy2017/lm20180308.pdf>  
外務省HP [https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4\\_007116.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_007116.html)  
ムスリム敬移民・難民と東南アジアの民族間関係—ミャンマー・マレーシア・バングラデシュの事例から—  
[https://ciras.cseas.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/09/CIRAS\\_DP79.pdf](https://ciras.cseas.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2018/09/CIRAS_DP79.pdf)  
笹川平和財団—ミャンマーと“ASEAN Way”—ロヒンギャ問題をめぐる議論と逡巡 | 記事一覧 | 国際情報ネットワークIINA 笹川平和財団 (spf.org)  
ミャンマーのロヒンギャ問題とASEAN—内政不干渉と保護する責任の狭間で—  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/kokusaiseiji/2018/190/2018\\_190\\_81/pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/kokusaiseiji/2018/190/2018_190_81/pdf/-char/ja)  
日本経済新聞「ASEAN、ロヒンギャ難民でミャンマーに配慮」  
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO29942690X20C18A4FF8000/>  
東南アジアの移民・難民問題を考える—地域研究の視点から—  
[http://www.jcas.jp/JCAS\\_collabo\\_12.pdf](http://www.jcas.jp/JCAS_collabo_12.pdf)  
国会会議録システム <https://kokkai.ndl.go.jp/#/?back>  
アンダマン海を南下するロヒンギャ--移民・難民・人身取引—無国籍（現地リポート）山田美和  
[https://ir.idc.go.jp/?action=repository\\_uri&item\\_id=46540&file\\_id=58&file\\_no=1](https://ir.idc.go.jp/?action=repository_uri&item_id=46540&file_id=58&file_no=1)

## 3 | ASEAN加盟国の対応

### ■ASEAN 「内政不干渉の原則」と「保護する責任」

- ▶ミャンマーの内政には介入せず、友人として国連主体のロヒンギャ帰還事業を支援
- ▶2012年ASEAN外相会議
- ミャンマー民主化過程への支持
- 国連機関や非政府組織と連携した人道支援の促進  
⇒ミャンマー側は州の問題であるとし、干渉を牽制

### ■マレーシア

- ▶ ASEAN加盟国の中で最も国内にロヒンギャ難民が多い国（2006年9月現在で約5万人以上）
- ▶ 国民の受け入れ意識が高い（野党や非イスラムもロヒンギャ問題への取り組みの重要性を理解し、受け入れに肯定的）
- ▶ 政府がミャンマー政府を公的に抗議

### ■タイ

- ▶ ロヒンギャの入国を阻止する姿勢
- 海軍によるロヒンギャの海上への押し戻し

### ■インドネシア

- ▶ ジョコ・ウィドド大統領は同じムスリムとしてロヒンギャ難民支援には前向き
- ▶ 以前から構築された信頼関係からミャンマーにASEANからの支援を受け入れることを要請

## 4 | 日本の対応

- 2017年9月、11月に計36億円以上の緊急援助
- 2018年1月にミャンマー政府に約24億円を難民帰還支援金として援助
- 赤十字や世界食糧計画、UNHCRなどの国際機関を通じて支援
- ミャンマーは日本にとって重要な政治的、経済的パートナーであることから、ミャンマー政府に対して関係者の解放、暴力の即時停止、民主的な政治体制の回復を求めつつ、「ロヒンギャ」名称を使わなかったり、ミャンマー政府への非難決議の採択で棄権している。
- 日本にはロヒンギャコミュニティが存在するが、その大半が難民認定を申請中の状態。

## 5 | まとめと考察

- ASEAN加盟国のほとんどが**難民条約に加入していないこと**や、ASEANによる「**内政不干渉の原則**」が、東南アジア諸国の難民保護の脆弱性を顕わにしている。
- 日本は、**資金面で支援しているものの、多くの日本企業がミャンマーに進出していること**から欧米諸国のように強い非難はできないが、歴史的背景から考えても隣国の宗教対立として見過ごすべきではないと考える。
- 日本は、**難民認定率が低いこと**が問題としてあげられているが、その原因として国の事情ではなく**難民個人の事情や危険性**に基づいて判断されているためではないかと考える。
- ミャンマー国内の軍によるクーデターにより、ロヒンギャ難民の帰還が厳しくなっている中、**ミャンマーの民主化**には難民問題の解決が避けられない。